

ラジオ技術確立の歴史

2025年9月27日(土) 13時30分～15時30分

本年は世界のラジオ放送開始から105年、日本のラジオ放送開始から100年を迎えました。ラジオ技術は長い歴史がありますが、その基本技術は1920年代で確立しました。デジタルの時代と呼ばれている現代においてもその基礎は変わっていません。

本セミナーでは、1920年代のラジオを中心に実演、説明を行い、ラジオ技術の変化・発展について解説します。

プログラム

1. ラジオの歴史と技術の概要

ラジオ技術史全体の年表、電波と受信機の基礎知識、現代の無線通信技術の基礎知識

2. ラジオ放送開始(1920年)までの歴史

電磁波の発見、音声通信の発明、真空管の発明と発展、各種受信回路方式の発明、最初期の真空管無線受信機

3. 1920年代のラジオ技術の解説

再生方式ラジオ RCA Radiola III、最初期のスーパーヘテロダイン受信機 WE4B、Atwater Kent 10、RCA Radiola 18

4. 1930年以降のラジオの歴史と技術

ナチス国民受信機 DKE38、発展していくスーパーヘテロダイン・ラジオ、日本のラジオの概略史、現代のデジタル・ラジオ



ラジオの原型機
WE SCR59(1917年)



スーパーヘテロダイン・ラジオの原型機
WE 4B(1924年)



ストレート方式ラジオの完成形
RCA Radiola 18(1928年)

講師のプロフィール(本セミナーに関して)

20歳代は無線技術者としてマイクロ波無線回線の調査・設計の業務に従事。

2012～2022年の間、大学における「エレクトロニクス科学史」の講義において、ラジオの歴史の調査を行いました。

現在は那須科学歴史館において、歴史遺産として価値のある古典ラジオの調査を行っています。

会場：那須科学歴史館

栃木県那須塩原市戸田 669-36

(詳しくはホームページ <https://tzwrdr.co.jp/nsh> を参照)

主催：那須科学歴史館、後援：那須塩原市教育委員会

講師：田澤勇夫(那須科学歴史館 館長)

参加費：1,000円 資料代含む

定員：9名(先着順)

参加申込：nsh_info@tzwrdr.co.jp 又は 0287-73-8740